

中学生ボランティアガイド

栗国村立栗国中学校
3年生 新城 れあ

私が初めて外国人観光客と会話をしたのは、両親のお店の手伝いをしている時です。メニュー表を指さしながら、「これ、ナニ?」「ナンてヨむ?」カタコトの日本語を使って話しかけてきます。日本語の表示しかない父のお店は外国人にとって、利用しにくいのだと気づくと同時に観光について考えるきっかけともなりました。

今、沖縄県の観光客は、観光地としても有名なハワイを追い越す勢いで増えています。ショッピングセンターへ行っても外国人の買い物客がたくさんいます。しかし、私達の住む栗国島では、観光客をみかけることはほとんどありません。

そんな中私達中学生の視点で、自分達の言葉で、自分達の島をガイドするとどうなるだろうか、という話が持ち上がりました。「絶対に、できないと思うよ。」「だって、どこに観光客がいるの?」「でも、おもしろそう。」「やってみたい。」そんないろいろな声が出ました。

私達が計画し、実行してみたことで、もしかしたら、島に観光客が一人でも多く、来てくれるかもしれない。まず、やってみよう。そこで私達は、実行してみることにしたのです。何もかも、ゼロからのスタートです。

島に観光客が訪れない理由は、いくつか考えられます。交通手段が片道二時間以上かかり、天候によって船の欠航も多くあるという不便さがあります。また、宿泊所が足りなくなる宿泊難民、食堂も少ないのでランチ難民が出ます。便利な都市生活と比べてみると、確かに島には、コンビニもないです。

しかし、私達はその「何もない」というのが逆に島の良さではないかと考えました。なぜなら、人工的で便利なものがない代わりに、ありのままの自然が残っているからです。インスタ映えする写真や映画では伝わらないライブ感のあるダイナミックな自然を感じる空間が島にはあるからです。なんのかがざり気もない島のありのままの姿こそ、私達が伝えたい島の良さではないか、そう思えるようになってきました。

「島を中学生の新しい視点で見つめていこう。」「これまでのガイドブックにはないやり方で案内できたらいいな。」

そして私達がガイドをする時に大切なこと等のアドバイスをしてもらった学習会も計画しました。これを活かして、「楽しい。」「栗国島に行ってみよう」と観光客が思えるようなガイドができるようにみんなでアイデアを出し合いました。そして、中学生ボランティアガイド「アグニーズ」が結成。テーマは、「中学生が語る栗国島エピソード」としました。観光ガイドブックには載っていない中学生だからこそ話せるエピソードをみんなから集めました。中学生らしいユーモアにあふれた表現は、新しいフレッシュな印象を持ってもらえる

のではないかと、思っています。

もう一つ。台風に強いと言われるフクギ並木や石灰岩でできた石垣の細い道が栗国島の村落にはたくさん残されていて、昔ながらのたたずまいを感じさせてくれます。その道を歩いてガイドしながら、島の風や光の中でインスタ映えのポーズを決めます。私達中学生が「ここではこのポーズ!!で撮ります。」とあらかじめ決めておいたインスタ映えを提供します。ちょっとした演出のための小道具もそろえておきます。このエピソードとインスタ映えはセットで7つ以上準備しておきます。

そして、いよいよ7月からこのプロジェクトがスタートすることになりました。私達中学生は今、地域の方々と協力しながら準備を進めている所です。私達は、この企画を通してたくさんの方に気づくことができました。自分の生まれ育った島を理解していくことの大切さや、多くの人と交流することで新たな発見ができたことなど。観光に訪れた人を喜ばせることは、栗国島に住んでいるおじいちゃんやおばあちゃん達を喜ばせることにもつながっていることなどです。

今、私達でも何かの役に立つことができるのだということを知り、私の中で観光への魅力が大きく広がってきています。